HARMONIZING RESTORATION　―烏山女子高校校舎の高齢者複合施設への更新―
-A proposal of senior citizen facilities through the conversion of the Karasuyama Women's High School-

宇都宮大学大学院工学研究科建設学専攻　建築計画研究室　　堰川　岳

背景と目的

建築は社会の資産として生みだされ、社会の変化に翻弄されるようにその役目を終える。
烏山女子高校。
平成20年度の高校再編によって烏山高校と統合され、現在在籍している2、3年生の卒業を待って廃校になる。
今まさに、役目を終えようとしている建築である。
しかし、その建築には、世代を超えた多くの人々の思い出が詰まっている。
そして、そこに住む人々の記憶を共有させ、長い時間を介することで地域のアイデンティティを形成してきた豊かさがある。
本計画では、社会の変化によって失われていく用途、また、その変化によって必要とされる用途を見据えると同時に、
過去と未来を繋ぐ建築を目指し、烏山女子高校校舎の高齢者複合施設への更新手法を提案する。

烏山女子高校玄関

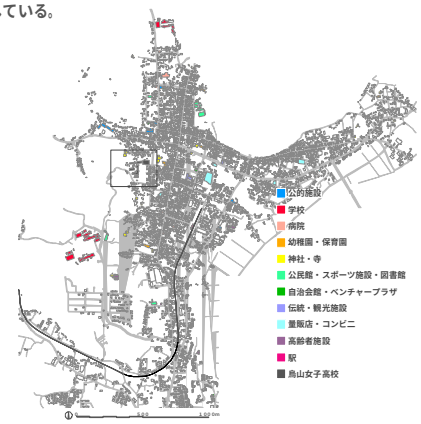
現在使われていない教室

烏山市街地

烏山市街地は、那珂川を含む大小河川が貫流する丘陵地帯の上に形成されている。
豊かな自然と共に城下町として栄えた歴史を持つ市街地には、公的施設、医療機関、教育施設がまとまり、コンパクトな住環境を形成している。

栃木県

那須烏山市



烏山市街地

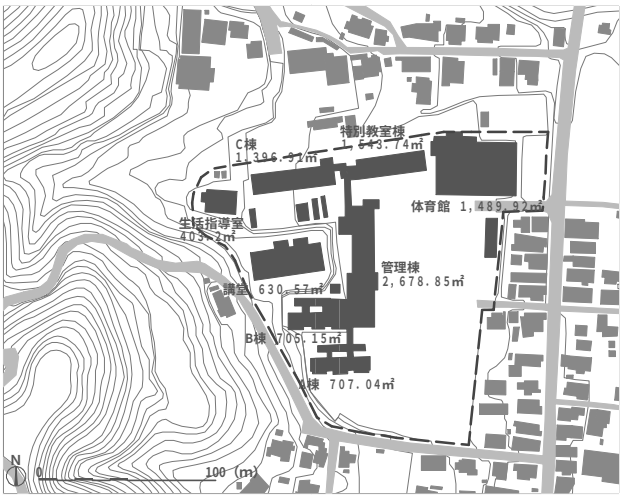
周辺環境

敷地は西側に山を背負い、東側に市街地を望む小高い丘に位置している。
敷地東側の校庭には大きなケヤキが配置され、市街地を見下ろす開けた広々とした空間が広がっている。
西側は、特有の高低差の中に、山や木々に囲まれた落ち着いた雰囲気を持つ裏庭のような空間を形成している。

既存平面構成

校舎は5つの棟に分かれており、特有の段差を有するランドスケープに配置されている。
既存1階平面は、校舎の各棟がそれぞれのアプローチ、エントランスを持つ構成をしている。
既存2階平面において、空中廊下により各棟がつながり、相互のアクセスが可能となる。

烏山女子高校校舎と校庭のケヤキ



烏山女子高校周辺

敷地東側の市街地を望む開けた空間

敷地西側の山や木々に囲まれた空間

敷地内からアプローチを見る

講堂内観

特別教室棟2階　物理教室内観

A棟2階　普通教室内観

敷地へのアプローチ

管理棟と特別教室棟をつなぐ空中廊下

管理棟とA棟をつなぐ空中廊下

管理棟と講堂をつなぐ連絡通路

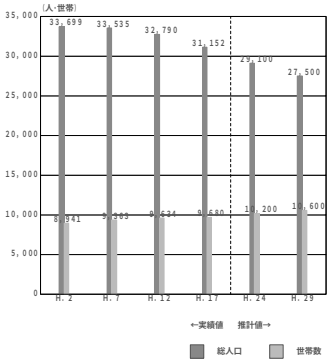
コンセプト

「HARMONIZING RESTORATION」
元々ある詩のリズムと韻を踏襲して、別の意味を持つ新しい詩に書換えるように、
元々ある音楽に新たな旋律を重ねて美しい和音を奏でるように、建築を創りたい。
市街地を臨む小高い丘にたたずむ建築の奏でるハーモニーが地域に響きわたり、そこに住む人々の世代を超えて記憶を共有していく。
建築の機能は、地域の都市構造の中に溶け込んでいくように、
建築の形態は、校舎と周辺環境、大地との関係を体現していくように、「調和」という命題のもと、建築を構想する。

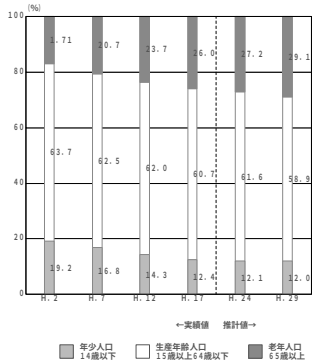
建築の手法

那須烏山市・烏山市街地の分析

人口・世帯数の推移と予測

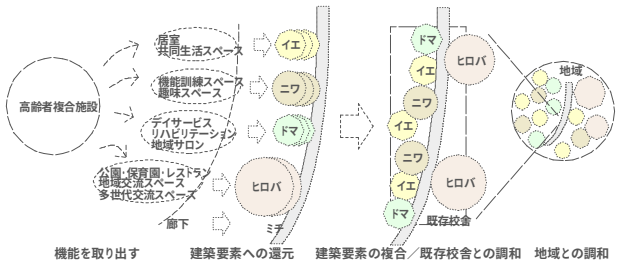


年齢別人口の推移と予測



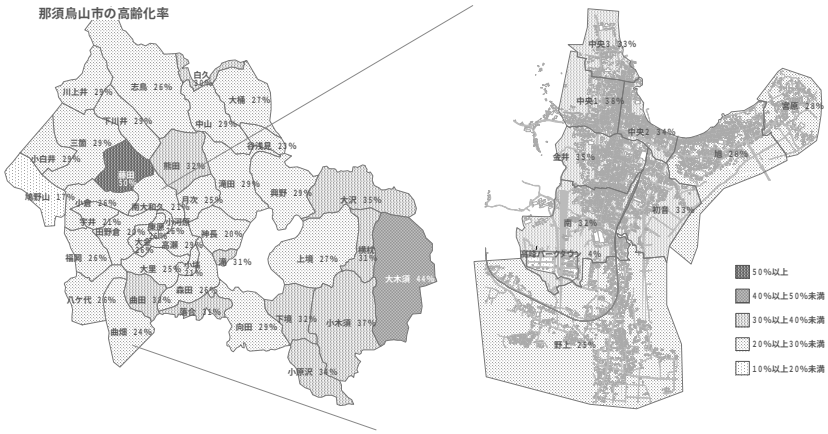
建築要素への還元と複合

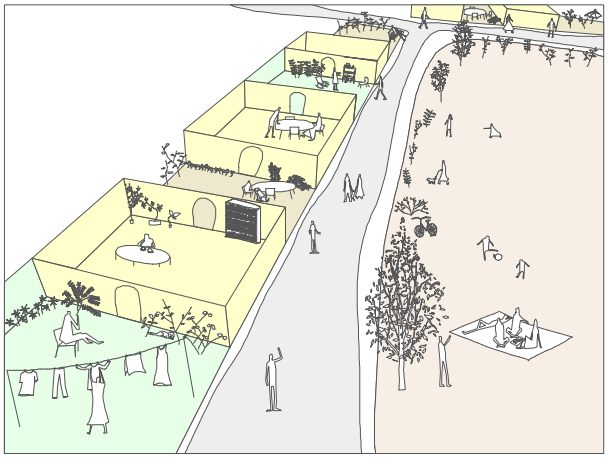
地域に対する必要性から得られたプログラムの各要素を、そのまま複合化させるのではなく、
地域を構成する諸要素と等価になるように還元した上で複合化させる。
高齢者複合施設という建築の機能が、地域に溶け込み、同時に、地域の機能が建築に内包さる。
そうすれば施設は自ずと地域に開かれていくはずである。
「建築要素への還元」と、「複合」という操作によって、既存校舎ヴォリュームに対し、
高齢者複合施設の複雑な機能ヴォリュームを重ね合わせた。
そして同時に、高齢者施設と地域との関係を見つめ直し、新たな関係性を再構築することを目指した。



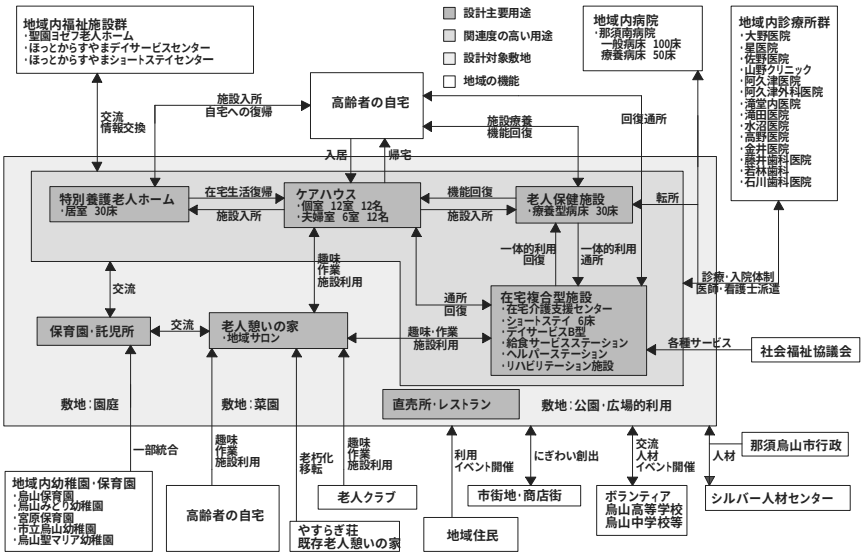
烏山市街地の高齢化率

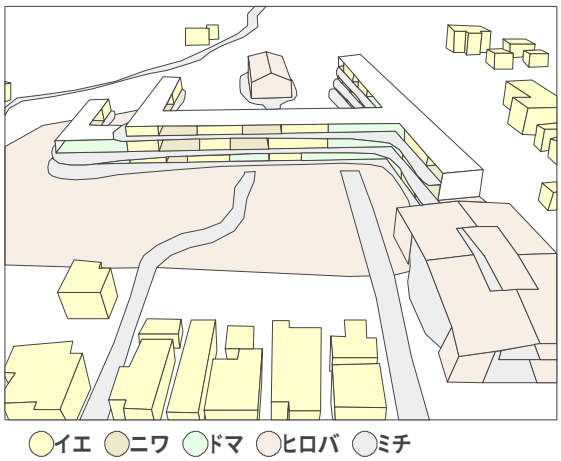
那須烏山市の高齢化率



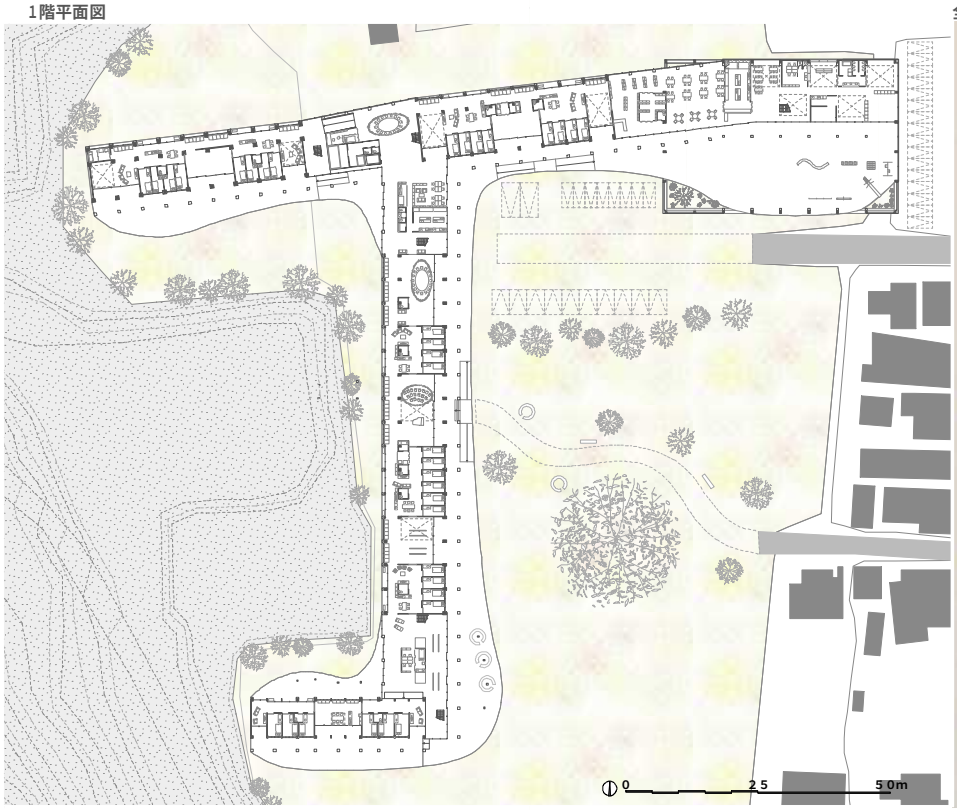


プログラム

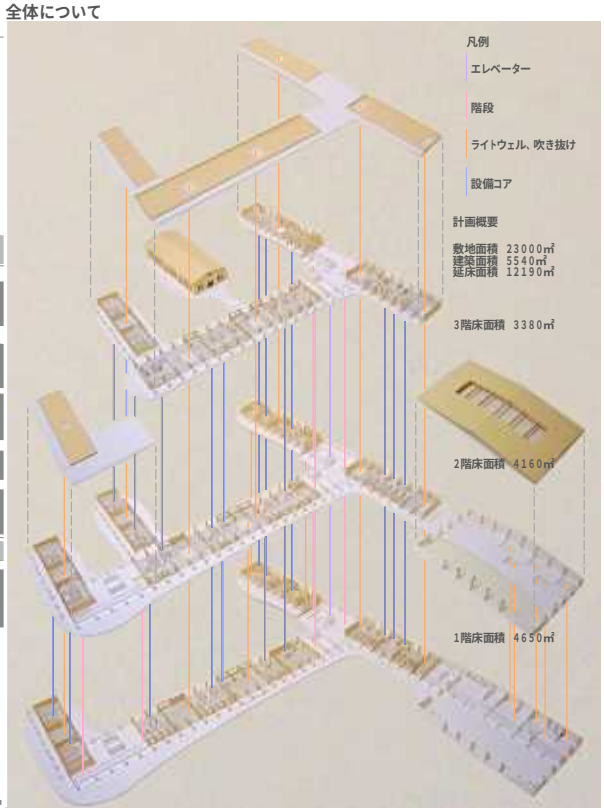




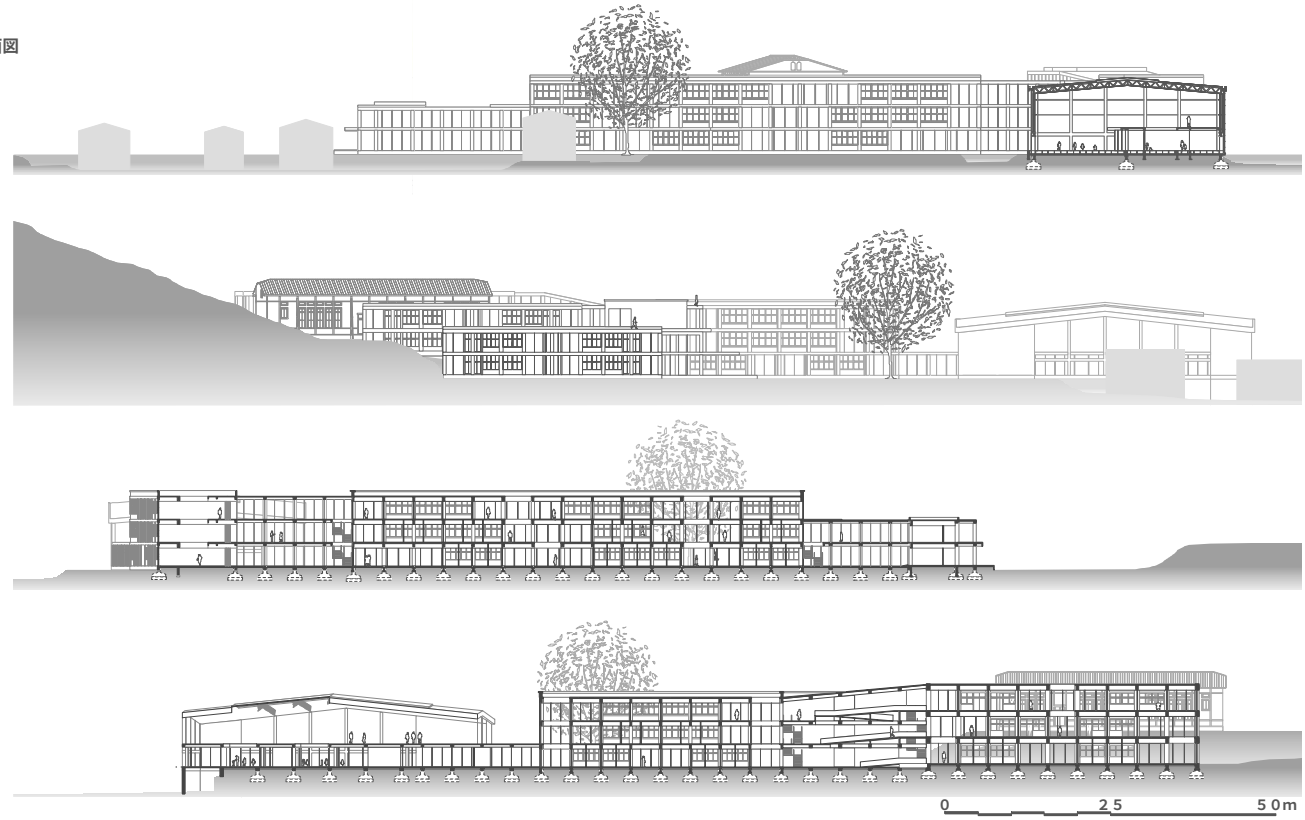
1階平面図



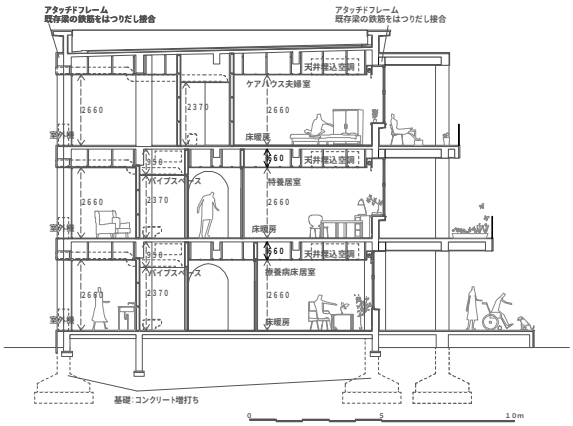
全体について

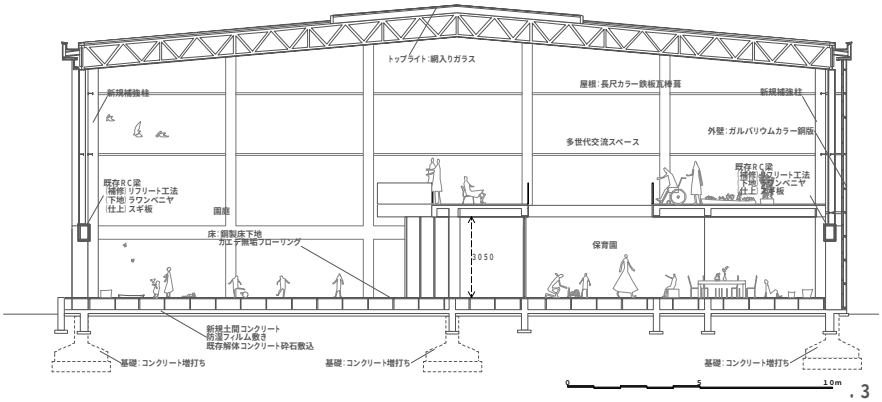


立面図・断面図



断面詳細図





増築部分内観

既存校舎という圧倒的な存在感をもつ空間に対し、新たに創られる空間は透明性を指向することで、新旧相互の空間を強める。

グループサロン内観

医務・静養室内観

談話・娯楽スペース内観

既存部分内観

既存部分の空間は、古さが持つ豊かさを継承する。例えば、教室の窓辺でうたた寝してしまうような心地よさを居室に、教室のスケール感が持つ開放的な雰囲気を共同生活スペースに。

ケアハウス居室内観

共同生活スペース内観

廊下部分内観

まとめ

本計画では、「調和」という命題をもとに、鳥山女子高校校舎の高齢者複合施設への更新の手法を模索した。
「調和」という概念を突き詰めるほど、建築は地域と一体になろうとし、大地と一体になろうとし、二つの異なるものが歩み寄って一体化することを目指した。
その一方で、新しさと古さは歩み寄ることなく、より対比を強めた。古さによって新しさは際立ち、古さによって新しさは定義される。
その意味において古さを残すことは、創造的な行為とも捉えられると考え、更新の一手法として提案した。